

第3章 活力あふれる 中核都市 久留米



久留米市は、これまであらゆる分野で創造性を発揮し、知恵と技術による総合力を蓄えてきました。特に、ゴム3社をはじめとする基幹産業や久留米餅に代表される伝統産業など、「ものづくりの拠点」として繁栄してきました。加えて、人々の生活を支える地域商業や県下一の産出額を誇る農業などにより発展の礎を築いてきました。

今日では、バイオや自動車関連産業などの新たな産業が集積しているほか、世界でもトップシェアを誇る企業や高い技術力を持つ企業により、「ものづくり」の精神は、現在も脈々と受け継がれています。

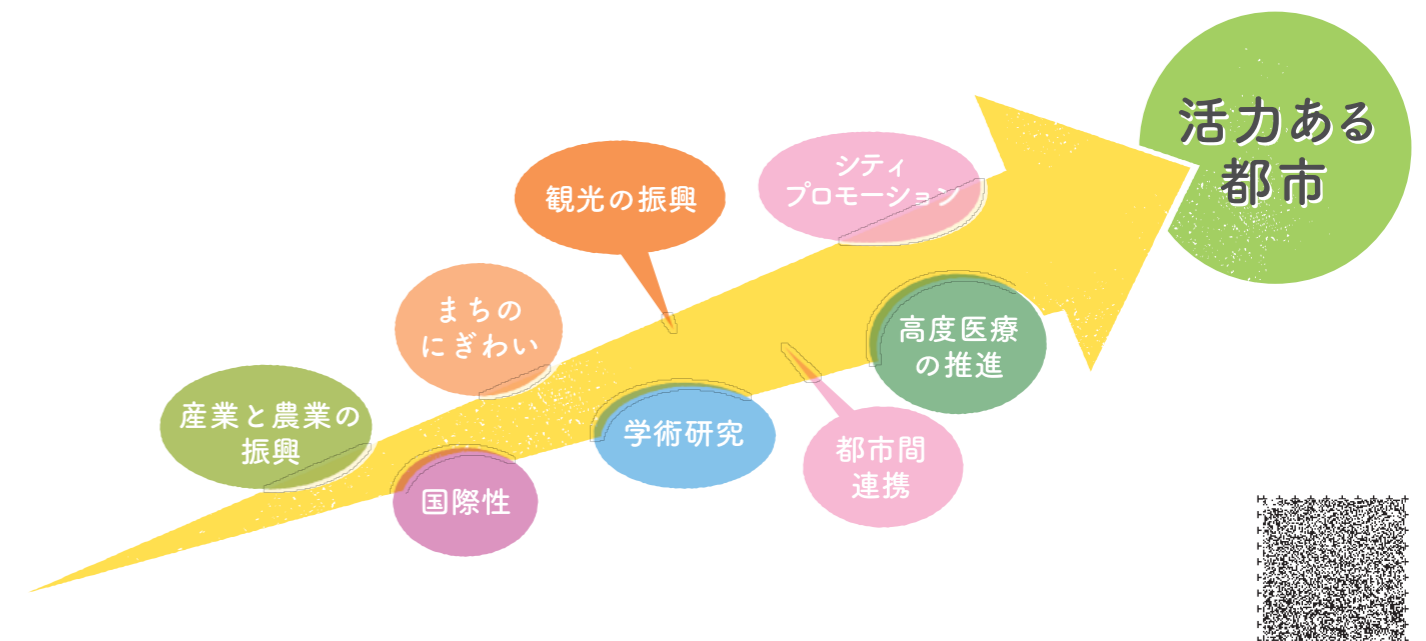
また、久留米市域にとどまらず、福岡県第3の、県南地域の中核都市として、周辺自治体を含む圏域全体の発展にも寄与するなど、一貫した理念の下で、都市としての風格を創り上げてきました。

今後、加速度的に進行する人口減少、超高齢社会において、地域の活力を維持し、持続可能な都市として自立していくためには、地域における確固たる産業基盤の確立と、多様な人材が活躍する環境づくりが不可欠です。

また、AIやIoTなど、ICT分野における高度な先進技術が急速に普及する中、これまで培ってきた技術力を積極的に活用し、新たな時代を先駆的に乗り切りながら、官民一体となって、地域の活性化につなげていかなければなりません。

こうした厳しい状況の中でも、これまで築かれた足腰の強い都市の基盤が、まちの活力につながり、生み出された活力が都市の魅力を上させ、その魅力が様々な人を惹きつけ、行き交うことにより、更に活気があふれた都市としての発展につながります。

これからも、これまでの歩みを止めることなく、持続的に発展する“活力あふれる中核都市”づくりを進めます。



第1節 知恵と技術を創造するまち

施策

- I 多様な地域産業の創出と振興
- II 魅力ある農業の振興
- III 多様な人材が活躍する労働環境の整備



目指す姿

地域経済をけん引する魅力的な成長分野の産業が創出され、地域産業が活性化し、更なる集積が進むことで、新たな雇用の場が生まれる活力のあるまちを目指します。

また、農業者の所得向上や安定的な農業経営により、他産地との競争に打ち勝つことができるブランド力を有した、持続的に成長可能な農業都市を目指します。

さらに、多様な人材がそれぞれの能力を發揮しながら活躍し、その能力やライフスタイルに応じて、多様な職業を選択できる労働環境が整備された、働きやすいまちを目指します。

現状と課題

バイオや自動車関連産業などの核となる産業の集積が進む中、地域経済が持続的に発展するためには、新産業や新技術の創出と育成をはじめ、産業構造の重層化や高度化、新たな雇用の受け皿となる新産業団地の整備などを進める必要があります。

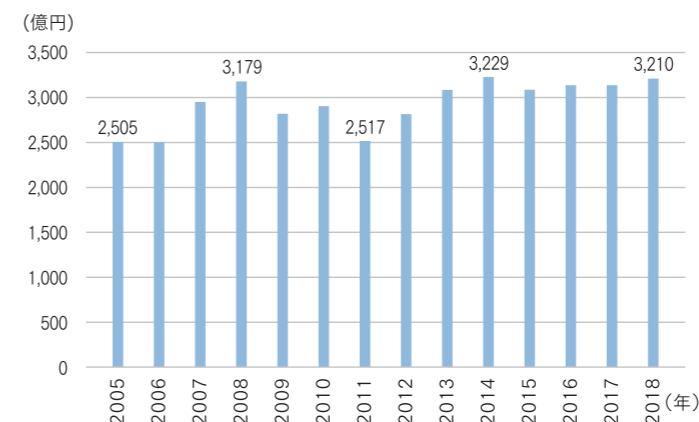
また、農業の担い手不足や農産物の価格低迷、貿易自由化の影響などに対応した高収益型の農業の創出や振興を進めるとともに、農業都市としての認知度向上に取り組む必要があります。

さらに、社会構造の変化に伴う担い手や労働力不足が課題となっており、テレワーク[※]の導入や働き方改革など、多様な人材が活躍できる、時代に即した労働環境の整備が必要です。

[※] テレワーク：情報通信技術を活用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと。

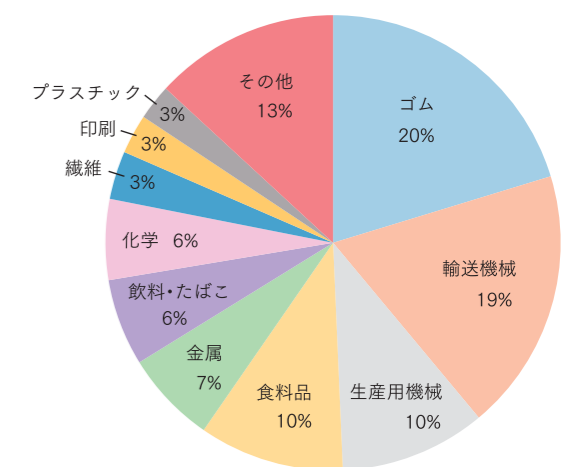


製造品出荷額



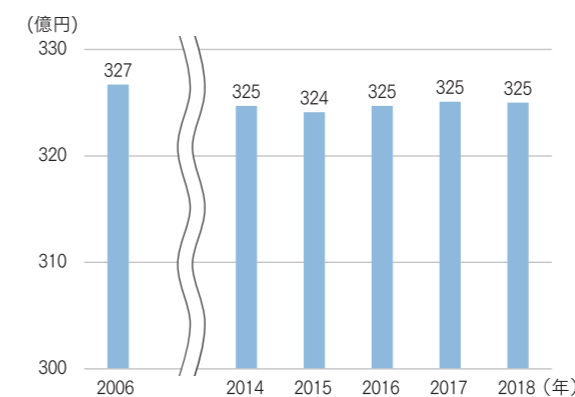
資料)福岡県「工業統計調査」、内閣府「地域経済分析システム(RESAS)」

製造品出荷額の内訳



※平成30年(2018年)
資料)経済産業省「工業統計表」、福岡県「工業統計調査」

農業産出額

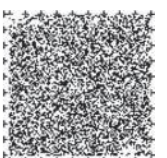
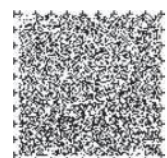


資料)農林水産省「農林水産統計」

県内シェア1位の農産物

品目	品名	生産量(トン)	県内シェア
普通作	米	19,100	10%
	レタス	8,051	61%
	こまつな	6,022	89%
	ほうれんそう	1,044	61%
	みずな	1,093	67%
	かぶ	760	43%
	たまねぎ	361	29%
	にら	436	88%
	みつば	297	92%
果実	ぶどう	1,202	22%
	ネクタリン	1.5	100%
花き	シクラメン(鉢)	115,000	30%
畜産	乳用牛(飼養頭数)	2,454	19%

※平成29年(2017年)推計値
資料)農林水産省「作物統計調査」、福岡県「農業統計調査」



施策の内容

I 多様な地域産業の創出と振興

地域商業の更なる振興に向けて、顧客獲得や販売力向上などによる経営基盤の強化や経営の効率化、地場特産品の販売促進や商品開発など、積極的な支援に取り組めます。

また、優れた技術や豊かな知恵などの特長を持つものづくり企業の情報発信に加え、国や県と連携した中小企業の生産性の向上、企業間連携の強化などの成長支援に取り組むとともに、企業誘致や新たな産業団地の整備を進めます。

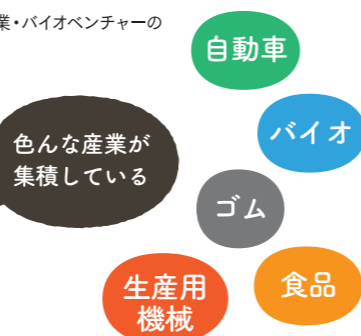
さらに、地域の特性を生かした産官学金のネットワーク形成や連携強化により、企業の成長段階に応じた多様で切れ目のない支援を通じて、新製品や新技術の研究開発、新産業の創出を促進するとともに、県と連携して推進する「福岡バイオバレープロジェクト[※]」において、バイオ関連産業の育成と成長を加速させる取組を進めます。

あわせて、将来的に市の基幹産業となりうるICTなどの成長分野の情報収集や研究、誘致に向けた取組を進めます。

[※] 福岡バイオバレープロジェクト：福岡県と連携し、久留米市を中心とする県南地域に、バイオテクノロジーを核とした新産業・バイオベンチャーの創出や、関連企業・研究機関の一大集積拠点(バイオクラスター)の形成を目指す取組。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
製造品出荷額	3,210億円	3,680億円

▶ものづくりのまちとして、様々な取組や支援の成果を総合的に示す指標として設定。



III 多様な人材が活躍する労働環境の整備

育児や介護などの生活環境と仕事の両立や、テレワークをはじめとした多様な働き方の実現などに取り組む企業を支援します。

また、国や県、経済団体などと連携し、労働関連法規や働き方改革に関する基本的な考え方、生産性向上への取組に対する支援策の周知に努めるなど、多様な人材が活躍できる働きやすい環境の整備促進に取り組めます。

さらに、今後増加していくことが見込まれる、技能実習生をはじめとした外国人労働者の受入れ支援についても、国や県、関係団体などと連携を図りながら取り組めます。



都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
労働者数 (雇用保険被保険者数)	82,687人	90,000人

▶生活する上での基盤となる雇用の受け皿づくりを進めることにより、まちの活性化につながることを示す指標として設定。

若い人たちの働く場所がもっと増えたらいいね

II 魅力ある農業の振興

多種多様な農産物の生産を振興するため、農業生産施設等の整備を支援するとともに、環境に配慮した農業や効率的な生産を実現するスマート農業[※]の推進に取り組めます。

また、法人化や経営の多角化などによる経営力の強化を支援するとともに、次世代の担い手となる新規就農者の育成と確保、人手不足や人材不足を解消するための労働力確保に向けた取組を進めます。

さらに、道の駅くるめや久留米市世界つつじセンター等の拠点施設を活用し、農業や農産物などの情報発信と緑花木産業の振興を図ります。

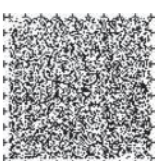
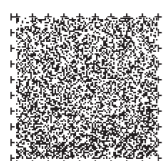
あわせて、農産物の知名度や農業都市としてのブランド力を向上させるため、トップセールスや各種メディアを活用したプロモーションなどに取り組めます。

[※] スマート農業：ロボット技術やICT等の先端技術を活用し、超省力化や高品質生産等を可能にする新たな農業。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
農業産出額	325億円	329億円

▶県下一の農業都市であり続けるため、様々な取組や支援の成果を総合的に示す指標として設定。

産出額の約半分は野菜だって



第2節 アジアに開かれたまち

施策

- I 学術研究都市づくりの推進
- II 国際性豊かな地域づくりの推進



目指す姿

豊かな文化資源や産業技術が蓄積された学術、文化、産業の創造的な拠点都市を目指すとともに、更なる経済成長が期待でき、様々な分野において交流の可能性があるアジアにつながる国際交流都市を目指します。

また、市民が主体的に取り組む国際協力や国際交流活動が活発に行われ、外国人にとって訪れやすく、住みやすい環境が整備された多文化共生^{【※】}のまちを目指します。

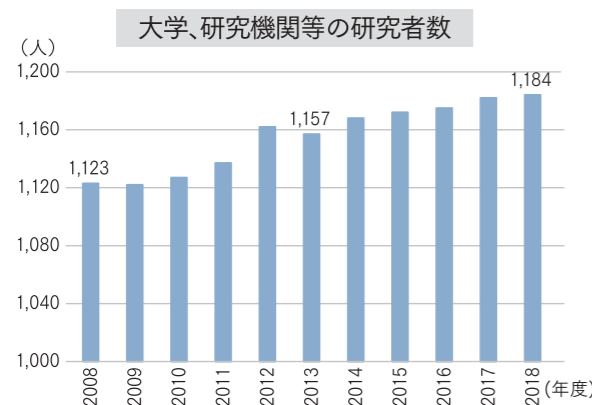
【※】多文化共生：国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

現状と課題

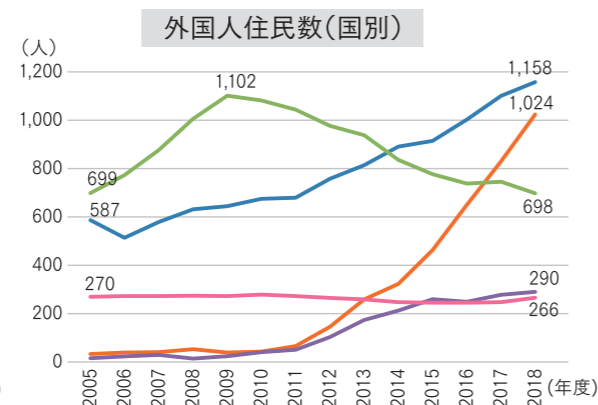
少子化の進行に伴う18歳人口の減少などにより、学術研究機関を取り巻く環境が大きく変化する中、貴重な地域資源である高等教育機関や試験研究機関等の集積を生かした地域活性化の取組が重要性を増しています。

また、情報通信技術や交通手段の発達、経済のグローバル化により、国際化が急速に進展する中、空港との交通アクセスがよく、世界とつながりやすい特性を生かして、成長著しいアジアの活力を地域の活性化に取り込んでいく必要があります。

さらに、人材の受入れに伴う外国人住民の増加が見込まれるため、互いの国籍や民族、文化や生活習慣の違いを尊重し、交流を深めながら共に暮らしていくことができる環境づくりが必要です。



資料)市内研究機関・大学等への調査



資料)久留米市住民基本台帳月報

施策の内容

I 学術研究都市づくりの推進

学術研究機関のネットワークを強化し、相互の連携を促進するとともに、それぞれが持つ特色を生かした研究活動の支援に取り組みます。

また、大学等と地域の連携による地域課題の解決や交流の活性化に取り組むとともに、国や県、民間などの先導的な研究プロジェクトによる研究成果を地域産業へ還元する取組を進めます。

あわせて、学術研究都市としての認知度を向上させるため、市内外に向けた情報発信の強化に取り組みます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
大学、研究機関等の研究者数	1,184人	1,184人

▶18歳人口の大幅な減少や急激な技術革新など、学術研究機関を取り巻く環境が変化する中、社会的な役割を維持し続けることを示す指標として設定。

たくさんの研究者が在籍しているね

II 国際性豊かな地域づくりの推進

海外への販路拡大に取り組む事業者を支援するとともに、国や県、関係機関と密接に連携して、地域企業の経営基盤の強化につながる積極的な海外展開の支援に取り組みます。

また、外国人が安心して生活できるよう、一元的な相談窓口の設置や行政情報の多言語化、日本語教育の機会の確保など、必要な支援の充実に向けて、県、大学、企業、地域などと連携して取り組みます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
外国人住民数	3,941人	5,500人

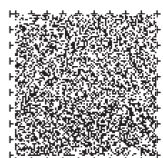
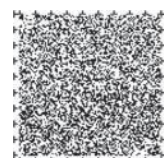
▶誰もが住みやすいまちづくりを進めることにより、外国人からも選んでもらえるようなまちになるための目安として設定。

みんなで協力して住みやすいまちを目指そう!

一元的な相談窓口

多言語化

日本語教育

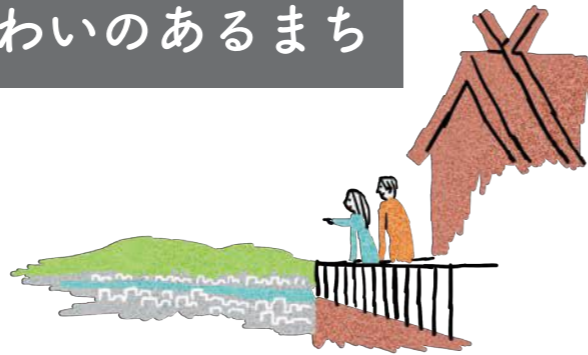


第3節 人と情報が行き交うにぎわいのあるまち

施策

I にぎわいと憩いの創出

II 魅力ある観光の振興



目指す姿

中心市街地の施設や機能を生かし、人、もの、情報などが行き交い、まちを楽しみながら活動できる、にぎわいのあるまちを目指します。

また、豊富な地域資源を生かした観光地づくりが進み、全国や海外からの誘客や、市域を越えた連携が充実した、活力ある交流拠点都市を目指します。

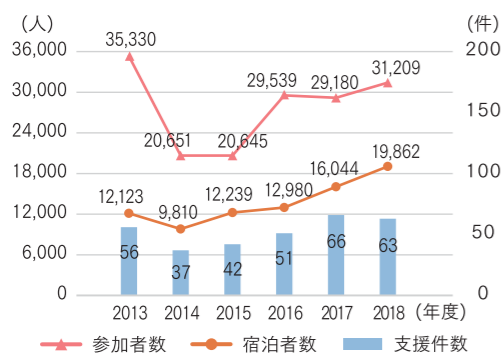
現状と課題

多様化する消費形態やニーズに対応するため、中心市街地における多彩なサービスの提供や快適に過ごすことができる環境整備が必要となっています。

また、市内で開催される学会や大会、イベントでの集客をまちのにぎわいにつなげていくことが必要です。

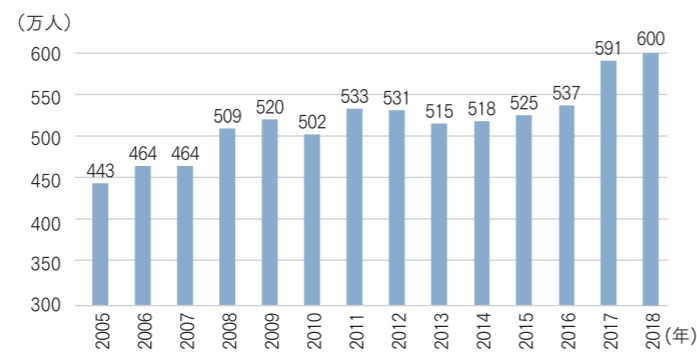
さらに、点在する観光資源の魅力が十分に認知されていないことから、誘客につながるような周遊性のある観光ルートや受け皿づくりを進めるとともに、その情報を効果的に発信する仕組みづくりが必要です。

MICE開催支援件数・宿泊者数・参加者数



資料)久留米市調査

市内を訪れた観光客数



資料)久留米市調査

施策の内容

I にぎわいと憩いの創出

広域求心力の中核を担う中心市街地の活性化を図るため、久留米シティプラザや久留米総合スポーツセンターを活用した学会や大会、イベント開催等による集客を、中心商店街や市内の各分野に経済効果として波及させる取組を進めます。

また、来街者や就業者、居住者のニーズを捉えた多様なサービスの提供や、賑わい拠点としての久留米シティプラザの活用などにより、楽しみと憩いを感じながら快適に過ごすことができる都市空間の形成を促進します。



まちなかが
たくさんの人で
あふれるように
なったらいいね

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
MICE[※] 開催支援件数	63件	70件

【※】MICE：企業等の会議(Meeting)、企業等を行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

▶経済波及効果の高いMICEを積極的に誘致し、支援することにより、地域の活性化につながることを示す指標として設定。

II 魅力ある観光の振興

久留米市を訪れる国内外の旅行客の嗜好や動向などを把握し、分析を進めるとともに、ニーズや滞在時間に応じた観光ルートの提案や効果的なプロモーションを通じて、今後も増加が見込まれる外国人観光客をターゲットにした誘客を強化します。

また、市民との協働により、地域の観光素材の発掘と魅力の付加に取り組み、地域に密着した観光振興を進めることで、地域の活力につなげます。

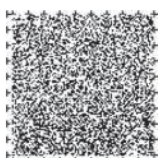
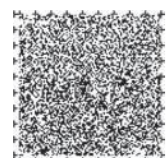
さらに、近隣自治体や事業者などと連携したプロモーションにより、国内外に対して情報を発信し、ブランド力や認知度向上に取り組みます。



「ほとめきのまち」を
つくっていきましょう!

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
市内を訪れた観光客数	600万人	630万人

▶国内外を問わず、多くの皆さんに久留米を知ってもらい、訪れてもらえるような取組の成果を示す指標として設定。



第4節 拠点都市の役割を果たすまち

施策

- I シティプロモーションの強化
- II 高度医療都市の推進
- III 都市間連携の推進



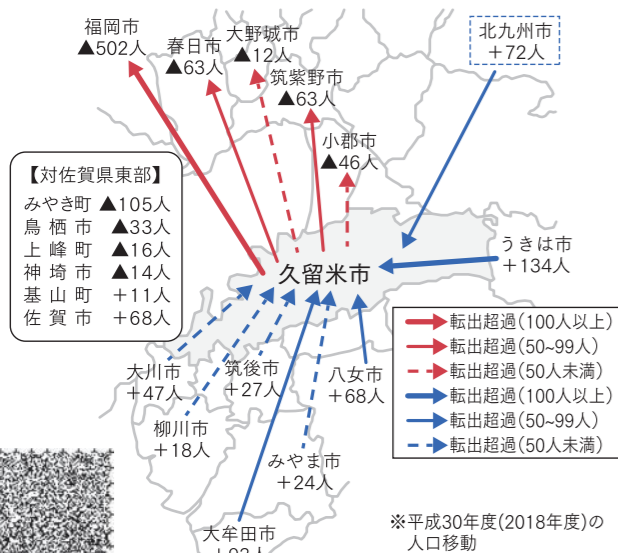
目指す姿

福岡県南地域の中核都市として、県や佐賀県東部を含む近隣市町と連携しながら、都市圏としての一体的な活力を持ち、地域をけん引する拠点性と求心力のあるまちを目指します。また、市民が誇りと愛着を持ち、市外の人からも高く評価される都市としてのブランドを確立させ、将来にわたって魅力にあふれるまちを目指します。

現状と課題

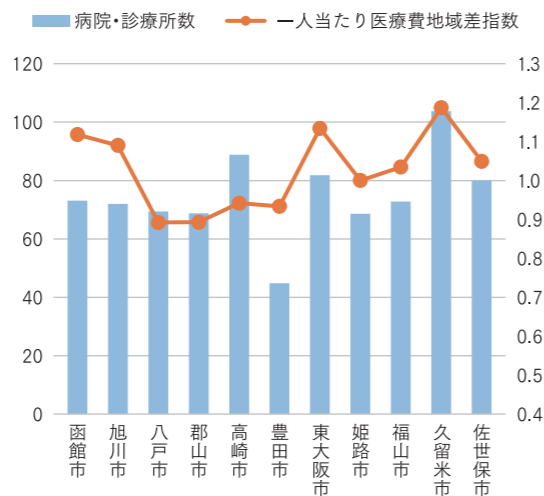
恵まれた自然環境や充実した都市機能をはじめ、歴史と伝統に育まれた特有の産業や文化、利便性の高い地理的条件など、高い成長可能性を秘めた都市として評価されています。このため、拠点都市としての機能や基盤整備を促進するとともに、魅力を磨き上げながら、戦略的かつ効果的な情報発信を行う必要があります。また、地域をけん引する産業基盤の集積や広域的な高次医療機能に加え、近隣市町が持つ資源や特性との連携を図りながら、人口の維持や地域活力の増進につなげていく必要があります。

周辺市町間の人口移動



資料) 久留米市住民基本台帳月報を基に作成

人口千人当たり病院・診療所数と1人当たり医療費地域差指数



資料) 日本医師会HP、厚生労働省「医療費の地域差分析」

施策の内容

I シティプロモーションの強化

豊かな自然や食、文化芸術、ものづくり、健康、医療などの地域資源の魅力向上を図るとともに、ターゲットに合わせた戦略的な情報発信やメディアの活用など、市民との協働による様々なシティプロモーション[※]活動を行うことにより、移住や定住、交流人口の拡大に取り組みます。また、市外の人々の久留米に対する印象や、他の自治体との比較による久留米の強みや弱みといった特徴の把握などにより、より効果の高い戦略的なプロモーションを展開していきます。

[※] シティプロモーション：都市の魅力や戦略的に発信することで、都市の認知度を向上させるとともに、観光誘客や企業誘致、地場産品の販売促進、定住促進につなげていく活動。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
住宅の購入を伴う転入者数	653人	720人

▶ 定住人口の増加を目指した移住プロモーションの取組の成果を示す指標として設定。

住みやすさをもっと知ってもらいたい

II 高度医療都市の推進

高度な医療機関が集積する恵まれた環境を生かし、先進医療技術の開発や導入を促進するなど、質の高い医療の提供体制の充実に取り組みます。さらに、広域医療ネットワークの充実や、より高度で専門的な救急医療機関へ速やかにつながり連携体制、国内トップクラスの救急搬送体制などを強化することにより、高度医療都市としてのブランド力を向上させるとともに、安全で安心な広域医療サービスの実現に取り組みます。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
アザレアネット[※]参加医療機関数 (累計)	189機関	250機関

▶ 「医者のみち久留米」の特徴を生かし、更なる医療機関相互の連携強化を図ることを示す指標として設定。

[※] アザレアネット：インターネット回線を利用した医療システムを用いて、患者の同意のもと、情報を開示している施設(病院等)が持つ診療情報を地域の医療機関が共有することで、地域医療の連携強化を目指すネットワークのこと。

III 都市間連携の推進

地域の一体的な成長や発展をけん引するため、連携中枢都市圏[※]など近隣自治体との連携により、社会や住民ニーズに対応した効率的かつ効果的な行政サービスを提供します。また、国の動向なども踏まえて、広域行政の取組の検証や見直し、共通課題に応じた新たな広域連携の枠組みの検討を行い、活力ある都市圏の形成に取り組みます。

[※] 連携中枢都市圏：地方圏域の中心的な役割を果たす中枢都市と近隣の市町村が連携し、人口減少・少子高齢社会でも、一定の圏域人口を有した活力ある社会経済を維持するために形成する圏域。

都市の姿指標 (主な指標)	現状値 平成30年(2018年)度	目標値 令和7年(2025年)度
久留米広域連携中枢都市圏の圏域人口	45.8万人	45.5万人

▶ 久留米市だけではなく周辺自治体と協力しながら、圏域全体での人口を維持することを示す指標として設定。注) 令和2年2月時点における各構成市町の「人口ビジョン将来展望」を合計して目標値としている。

周りの市町との協力が必要なんだね

